

桑折町公共下水道事業
10年概成アクションプラン

令和4年7月

桑折町

1 目 的

桑折町の下水道事業は、昭和63年に着手して以来、今日まで約35年間にわたり整備を進めてきており、令和3年度末で汚水処理人口普及率78.0%（うち下水道48.2%）となっている。

令和3年度に下水道全体計画の見直しを行い、現在の供用区域（第2処理分区）のみとした。平成29年度に供用区域は整備完了しており、今後は、改築・更新等の老朽化対策や適正な使用料金の設定など、持続可能な汚水処理事業が求められているところである。

このような背景の中、今後4年間を整備目標の一定の目処とし（中期目標）、効果的、効率的な汚水処理事業（長期目標）を目指すことを目的とする。

2 方 針

中期目標では、現在の都道府県構想で下水道を整備することとしている区域について、エリアの細分化を行うこととする。

整備エリア設定については、土地利用、市街地・集落の連担状況、計画人口、費用効果等を勘案することとする。

長期目標では、桑折第2処理分区の維持管理や運営管理の観点を含めた計画とする。

なお、当面は下水道についてのみアクションプランを策定することとする。

3 整備エリアの区分設定

① 整備エリアの区分

現在、都道府県構想において、下水道で整備することとなっている地域を以下のエリアに細分化する。

- | |
|---|
| A：アクションプランで整備するエリア（10年概成エリア） |
| B：可能な限りアクションプランで（4年程度で）整備したいエリア。または、アクションプラン後、最優先するエリア。 |
| C：投資効果を踏まえて、アクションプラン後に順次整備するエリア。（下水道の整備はするが時期は未定） |
| D：当面、下水道を整備しないエリア。 |

② 設定方針の考え方

整備エリアについては、土地利用、市街地・集落の連担状況、計画人口、費用効果等を勘案し、現在、未整備の桑折第2処理分区をCエリアとする。

4 低コスト手法等の検討

① 曲管利用によるマンホール削減

- ・桑折第2処理分区 L=22箇所を採用。→482万円の縮減

5 財政計画

・概算事業費

(単位：百万円)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
第2処理分区	109	83	15	15	21	20	18	18	18	18	335

・維持管理費

(単位：百万円)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
第2処理分区	40	40	45	45	45	45	45	45	45	45	440

6 都道府県構想、事業計画への反映

① 構想見直しについて

今回のアクションプランに基づき、令和6年度に構想を見直す予定。

② 事業計画の変更について

令和3年度に事業計画の変更を実施。その際、都道府県構想の見直しと整合性を図った。事業期間は令和8年度である。

7 持続可能な汚水処理事業へ向けての中長期計画

- ・ 下水道接続率の向上のための推進活動。
- ・ 桑折第2処理分区の整備が終了し維持管理経費、人件費抑制等の検討。
- ・ 一番古い管でも供用開始から35年未満と耐用年数には達しておらず、まだ更新の時期になっていないが、点検の結果を受け施設の計画的な更新に向け、今後、長期的な視点で下水道施設全体の今後の老朽化の進展状況を考慮する。

また、ストックマネジメント計画に則り、リスク評価等による優先順位付けを行ったうえで、施設の点検・調査、修繕・改築を実施し、施設全体を対象とした施設管理の最適化を行っていく。

